

ATAC創立15周年を迎えて



ATAC会長
古池 進

お蔭様でATACが今年で15周年を迎えました。

その実績は、通算でコンサルティング契約数約500件、対象企業150社を超え、北は北海道から南は沖縄までその活動範囲を拡大し、文字通り東奔西走の活動を行ってきました。

ATACは、主として民間企業の技術者・事業経営者・管理職などのOBが中心となり、永年培ってきた経験や知識を生かして、そのスキルを中堅・中小企業の発展のために役立てるべくコンサルティング活動を続けてきた高度技術者集団です。

関西圏には、独創的なオンリーワン技術を持った中堅・中小企業が多く存在し、モノづくりを支えています。日本が欧米とBRICs諸国の狭間にあって今後の産業の方向を模索している現在こそ、関西企業が日本の産業を牽引していかなければなりません。

ATACメンバーは関西における技術開発とモノづくりをさらに活性化し、21世紀の我が国の産業を継続的に発展させるために、日夜、デスクワークからフィールドワークまで精力的に取り組んでおります。中堅・中小企業を愛し、モノづくりを愛し、これらにエネルギーを傾注することへの使命感が、活動の源泉になっていると思います。

さらに重要なことは、“ATACを使い、ATACを励まし、ATACを愛して頂いた”中堅・中小企業の経営責任者の方々の温かいご支援により、15年間の活動が継続できたことです。ここに深く感謝する次第です。

これからも是非ATACをご理解頂き、引き続きのご支援とご鞭撻をお願いし、ATAC15周年記念号の巻頭のご挨拶と致します。

「ATAC創立15周年、おめでとうございます」
太陽刷子株式会社
代表取締役社長 小倉 義生氏

ATAC様が15周年を迎えられましたことに心からお慶びを申し上げます。ATAC様には創立当初よりお世話になり、有形、無形の多大なる成果を戴いております、改めて厚く御礼を申し上げます。



ATAC様が活動を開始されました15年前と申しますと、ジャパンアズナンバーワンともてはやされた日本経済絶頂期が終わりを告げ、後々「失われた10年」と称された絶不調期へと向かいつつある頃でありましたがまだまだ実感は乏しく、小生が代表幹事を仰せつかっておりました中堅中小企業を中心とした異業種交流研究会(MATE研究会)も会員数40数社、会員の中心は創業者であり活動も活発でありました。しかしこの頃のヒット曲と言えばリバイバル曲、ベストセラーは「清貧の思想」等その後の「失われた10年」をイメージさせる社会であったと言えます。

その「失われた10年」を乗り越え、世紀が代わり、漸く明るさが見えようとしている今日に残ってきた中堅中小企業は経営、生産技術も含めた独自技術を確認してきた企業でありますがこの困難な時代に大企業出身の技術者を中心とした、中小企業では望むべくもない視野の広さ、技術レベルの高さ、人脈の多様さ、関連提携企業の多様さを活用し担当技術者の教育、レベルアップにまでその力を発揮されて中堅中小企業の独自技術の確立に貢献されてきたのがATAC様であります。今では、奈良、和歌山、岡山、広島に兄弟姉妹組織も活動を開始され、またメンバーの中には北は北海道から南は沖縄まで飛び回りまるで売れっ子タレント顔負けの過密スケジュールをこなしておられる方もあるやに聞いております。

このような御活躍の陰には、初代荒川運営委員長様はじめ歴代の会長様、役員様の並々ならぬ御努力とリーダーシップがあるのはもとより各会員様が各自の技術、ノウハウの上に胡座をかくのではなく毎月の会員相互の研修会、新技術・先端技術の研究、先端設備工場の見学等を実施される等日々新しい知識の吸収に励んでおられるというたゆまぬ努力があります。今後ともこの姿勢の上に立て大企業出身者ならではの或いは企業経営者ならではの特徴を発揮されまして我々中小企業の独自技術の確立にお力を貸して戴き、更に20周年、30周年に向けて御発展されますようお祈り申し上げます。

最後に、改めて創立15周年 おめでとうございます。

ATAC創立の頃

ATAC副会長
荒川 守正

私は約15年毎に、転機が訪れるらしい。31歳(1956年)から勤めた父の会社を47歳(72年)で辞めて、ナード研究所を始め、62歳(87年)で会長、77歳(02年)で名誉会長、その後相談役。



異業種交流MATE研究会には、49歳(74年)で入会し、平成2年(90年)に転機の虫が騒いだのか、近畿化学工業界の4月号に、異業種交流だけでは物足りない気持ちを、ATA設立の夢と言う一文に書いた。即ち、当時の高齢者対策が余りにも貧困であったので、60歳過ぎの元気な退職技術者を集め、お互いに良く知り合った後、新たに企業を起こすなり、中小企業の支援をするなりというような異人種交流会を立ち上げてはと言うものであった。たまたま同じ年に、大阪科学技術センターが創立30周年を迎え、センターの大きな使命の一つでもある中堅中小企業対策の記念事業に何をすべきかとの諮問が、MATE研究会に出された。

私の提案は、ATA設立の夢の一文そのままであったが、百余件の提案が審議され、①中堅・中小企業人材育成支援事業、②中堅・中小企業表彰制度、③ATAC活動(ATAでは弱々しいとの声があり)の3件がMATE研究会から答申された。センター側ではATAC活動案のみを採り上げ、1991年度より実施することとし、言い出し兵衛の私に運営委員長をするようにとの指示があった。早速、センターのネットワークの中の有力候補の方々に声をかけ、15人ばかりに集まっていた。中には既にコンサルを業としたベテランもおられ、入会金50万円、年12万円の会費という私の案は、ベテランの人々から、猛烈な反対を受けた。私の考えでは、退職後個人で仕事を始めるにしても、1000万円ぐらいは用意しなければならず、必ずしもそれが返って来るとの保証もない。ATACに参加するにしても、人々にはそれだけの決意が必要だと思い、賛同者のみで発足した。率直に言って、大企業出身者は、与えられた仕事は本当に旨くこなされるが、新たに仕事を創出することはやや不得手ようである。そこで、MATE研究会の数十社の社長さんらに無理を言って、夫れ夫れに仕事を出して戴き、各社から100万円ずつを戴いた。これは大変有り難い支援であった。又初代と2代のATAC会長を引き受けていただいた中条弘毅氏(大阪ガス)と水野博之氏(松下電器)にはご心配をおかけしたり、並々ならぬ広報支援をいただいたりした。あれから15年、今日までやってこられたのは、センターは元より実に多くの方々の温かいご支援の賜物と改めてお礼を申し上げたい。そして又もや、私の最後の転機の虫が蠕動しだしたようである。

さて、この次は？

ATAC15年の歩み

1990年	3月	(財)大阪科学技術センター (OSTEC)、30周年記念科学技術振興・情報基盤整備基金設立
	4月	同基金による中堅・中小企業振興事業について、技術と市場開発研究会 (MATE研究会) へ諮問
	11月	MATE研究会、Advanced Technologist Activation Center (ATAC) 構想を提案、OSTEC、同構想を採択。
1991年	4月	ATAC、発足 (会長 中条弘毅、運営委員長 荒川守正、会員12名)
1992年	10月	水野博之、会長に就任
1994年	4月	ATAC発足3周年、同記念講演会、祝賀会開催
	11月	宿泊見学研修 (和歌山地方：近畿大学水産研究所白浜実験場、南方熊楠記念館)
1995年	11月	宿泊見学研修 (四国地方：松下寿電子工業(株)大洲事業部、大洲町・内子町等明治の町並み、子規記念博物館)
1996年	4月	シリコンバレー・ベンチャー企業調査団参加
	10月	ATAC5周年記念講演会、祝賀会開催 「行動する起業家としての能力獲得を目指して：神戸大学経営学部 加登 豊」 パネルディスカッション 「輝く中堅・中小企業を目指して」 ATAC5周年記念誌「ATACの経営便利帳」出版 ATAC5周年記念事業「ドリカムプラン」開始
	11月	宿泊見学研修 (九州地方：三和酒類(株)、大山町「木の花ガルテン」、九州松下電器(株)FA事業部鳥栖工場)
1997年	2月	東南アジア視察研修 (ミネベア(株)ロッフリ工場、同バンパイン工場、シンガポール松下冷機(株)、シンガポール松下テクノロジー)
	5月	荒川守正、ATAC副会長に就任、五百蔵弘典、同運営委員長に就任
	7月	宿泊見学研修 (中国地方：白光(株)上町工場、共和機械(株)、津山松下電器(株)、林原生物化学研究所)
	10月	ドリカムプランの一環として阪大工学部において「NEOS Nishikawa Entrepreneur Open School」を開講
	12月	宿泊見学研修 (北陸地方：(株)松浦機械製作所、セーレン(株)、渋谷工業(株)、石川県金沢工業試験所、金沢工業大学)
1998年	1月	ATAC・MATE奈良、発足
	2月	宿泊見学研修 (丹後地方：グンゼ博物館、(株)日進、(株)積進、吉村機業(株))
	5月	米国視察研修 (ボーイング社、ヒューレット・パッカート社、松下アビオニクスシステム社)
	7月	杉山一彦、会長就任
	12月	宿泊見学研修 (長野地方：NEC長野(株)、チノン(株)、松下通信(株)松本工場)
1999年	2月	「中小企業支援制度」講演会、相談会開催
	5月	欧州視察研修 (フィリップス社、MEE：三菱重工(株)欧州現地法人)
	12月	宿泊見学研修 (中国四国地方：ナカシマプロペラ(株)、松下電器(株)ビデオ(事)岡山工場、愛媛臨界工業団地、三菱電機(株)、アサヒビール(株)、西条市産業情報支援センター)
2000年	3月	ATAC活動事例集「現場の課題解決はこうする (中堅・中小企業の業務改善事例)」出版
	5月	中国視察研修 (中国華録・松下電子信息有限公司、ミネベア(株)上海工場、同西岑工場)
	7月	「現場の課題解決はこうする」出版記念講演会開催
	9月	「中小企業の情報技術 (IT)」講演会と課題解決の相談会開催
	11月	「中小企業の支援制度」講演会と課題解決の相談会開催
	12月	宿泊見学研修 (北海道地方：北勝水産、サロマ地域廃棄物処理施設、士幌町農協馬鈴薯加工施設、日本甜菜製糖(株)芽室製糖所)
2001年	6月	ATAC10周年記念講演会、同祝賀会開催 「21世紀を生きる中小企業の問題とその対処：(株)国際基板材料研究所 佐々木 正」 「21世紀の物作りを考える：長島精工(株)長島善之」



2002年	7月	ATAC10周年記念誌「ATAC提言集1〜4集」を出版	
	10月	ATAC・MATE岡山、発足 「人材育成」をテーマに課題懇談会と相談会を開催 ATAC10周年記念事業「NASCA Needs and seeds coordination activity」開始	
	12月	宿泊見学研修(富士相模地方：住友電工(株)横浜工場、富士ゼロックス(株)海老名事業所、(株)リコー御殿場事業所)	
	1月	ATAC5周年記念事業NEOS は、この年の「バーチャルベンチャー」のテーマを最後に終了 「公的支援制度の活用」をテーマに課題懇談会と相談会を開催	
	2月	ATAC提言集 第5集「材料選択の手引き」発刊	
	6月	ATAC・MATE和歌山、発足	
	8月	eメールなどによる「ATAC公的支援ニュース」配信開始	
	9月	季刊「ATACニュース」を西日本700社を対象に創刊、配布開始	
	11月	企業のトップを対象に「社長のためのISOトップセミナー」を開催	
	12月	宿泊見学研修(山陰地方：閑谷学校、ナショナルマイクロモーター(株)、足立美術館、オムロン鳥取(株)、鳥取三洋電機(株))	
			
2003年	2月	第1回ATACグループ交歓会(於和歌山) 各地に誕生したATACのグループ間の意思疎通と交歓のために発足 大阪、奈良、岡山、和歌山各グループから参加	
	3月	経営幹部を対象に、定期的にテーマに沿った企業を見学し、その社長の話を聞き、懇談を行う「社長懇話会」を発足。第1回は「人材育成」をテーマに、長島精工(株)の見学と長島良之社長を囲む講話と懇談	
	5月	五百蔵弘典、ATAC副会長に就任、梶原孝生、同運営委員長に就任	
	6月	ATAC提言集、第6集「設計を考える」を発刊	
	7月	第2回社長懇話会：「人材育成と社内活性化」、白光(株)見学、吉村佳代子社長講話	
	10月	「産学交流マッチングフェア」(於阪大)にATACブース出展(以後毎年出展継続)	
	11月	第3回社長懇話会：「環境変化に挑戦する生産体制の革新」、(株)イワサキ見学、岩崎剛巧社長・岩崎基造リーダー講話	
	12月	宿泊見学研修(四国地方：大塚国際美術館、(株)アプロサイエンス、不二精機(株)、明石海峡大橋・しまなみ海道)	
2004年	3月	第4回社長懇話会：「環境変化に挑戦する生産体制の革新・・・II」、ナルックス(株)見学、北川清一郎社長講話	
	4月	第2回ATACグループ交歓会(於吉野：大阪、奈良、岡山、和歌山各グループから参加)	
	7月	第5回社長懇話会：「常に変革を求めて躍進する経営手法とやる気を起こさす人事管理」、(株)ナード研究所見学、南 則雄社長講話	
	12月	宿泊見学研修(東海地方：松下電器(株)洗濯機(事)静岡工場、ヤマハ(株)ピアノ工場・管楽器工場)	
2005年	3月	ATACひろしま、発足	
	4月	第3回ATACグループ交歓会(於岡山：大阪、奈良、岡山、ひろしま各グループから参加) 第6回社長懇話会：「荒波の中でさらに発展を目指して」、(株)デジタル 和泉工場見学、清水 正社長講話	
	11月	第7回社長懇話会：「ものづくり一流企業への挑戦」、(株)中村超硬見学、井上 誠社長講話	
	12月	宿泊見学研修(山陽地方：グローリー工業(株)、Spring8、松下電器(株)クッキングシステム(事)、(株)パトライト三田工場)	
2006年	1・2月	「中堅・中小企業への団塊世代活用推進を目的としたセミナー」開催 講演「企業OBが中小企業で活躍するための心の準備について：(株)中村超硬 井上 誠」 「大企業OBが中小企業で活躍するために：ATAC 田頭規夫」 パネルディスカッション 「企業OB人材を活用するには」	
	4月	立命館大学「産学協同アントレプレナー教育プログラム」の中の「技術系ベンチャー論」、「製品事業化システム論」の連続講義開始 第4回ATACグループ交歓会(於大阪：大阪、奈良、岡山、和歌山、ひろしま各グループ参加)	
	5月	第8回社長懇話会：「独自のセル生産方式と人事管理による多品種少量短納期戦略」、(株)パトライト 三田工場見学、河瀬 浩社長講話	
	10月	ATAC15周年記念講演会、同祝賀会開催 「目からウロコのアドバイス 中小企業経営者への提言」出版	

●●●出席者 (順不同、敬称略)

株式会社吉井商店 専務取締役 吉井 健司
株式会社デジタル 執行役員生産本部長 金澤 研一
五鈴精工硝子株式会社 常務取締役 栄西 俊彦
株式会社向井珍味堂 代表取締役社長 中尾 敏彦
ATAC運営委員長 梶原 孝生、副運営委員長 田頭 規夫

「ATACに望む」要約



ATAC15周年記念座談会

【梶原】ATACは今秋設立15周年記念行事を盛大に開催する予定です。その企画の一つとして、ATACニュースの記念特集号を編集し、その中にATACに対する皆様のご意見やご感想を特集記事として載せようと考えています。その企画のために本日も忙しいところをお集まりいただいたわけですが、忌憚のないご意見をお願いします。

◆自己紹介とATACとの関係

【吉井】会社は石川県金沢市ですが、地方には良い相談相手がないので、距離的に遠いが大阪のATACにお願いしています。会社は金箔という伝統産業の仕事で90年近く続けています。私は3代目で父が80歳ですが、まだ社長をしています。



金澤執行役員

【金澤】本社は大阪南港です。工場は大阪府和泉市と中国の無錫にあります。製品は切符の自動販売機や銀行のATM端末などで目にするタッチパネルを触って機械を動かす表示器（正式にはプログラマブル表示器と言います）やFA機器が主です。点在していた工場を和泉市に集約する時にATACに新しい生産ラインの構築でお世話になって以来のお付き合いです。

【栄西】社名の五鈴は先々代の社長が伊勢神宮を信仰していたので五十鈴川に由来しています。そのままでは恐れ多いので十を抜いたのです。今年、創業101年目で、五鈴の社名になってから60年の会社です。創業時は硝子のボタンや碁石を作っていました。これらの製品は25～6年前に止め、光学部門に絞ったのです。今の主製品は液晶プロジェクターのレンズアレーです。

【中尾】私の方はハイテクの格好よい企業ではなく、きな粉や唐辛子など昔から変わらぬ食品を製造していますが、古い中で新しいことをやりたいと、ATACにお願いしているのです。珍味堂は他社にない味の食品を作る会社という意味で、差別化の理念が込められた社名なのです。その柱になる食品は赤・黄・緑で赤は唐辛子、黄はきな粉と金ゴマ、緑は青海苔なのです。

◆ATACに依頼したコンサルティング内容

【栄西】ATACにいろいろやってもらっていますが、開発型企業でありながら、微妙な考え方のズレから外から取り込むのは面倒臭がる体質があります。急激に大きくなったので技術指導が行き届かない場面があり、難しい説明は嫌がるのです。新しい技術に取組む姿勢にギャップが生じます。それを乗り越えるために内部の人が指導すると、仕事が忙しいことが分かっているのに、妥協してしまうところがあるのです。外部の人に指導してもらって、やらざるを得ない状況に追い込むために、ATACに新しい技術の導入をお願いしたのです。



梶原運営委員長

【梶原】社長さんが毎日口うるさく言ってもうまいかないので、ATACに頼みに来られるのですが、現場は、これだけやっているのにATACなど来てもらわなくてもいいよというケースが多いのです。まず現場の責任者と信頼関係を築く事が大切です。私がATACのメンバーに言っているのは、理想論ではなく社長さんや担当の方が何を望んでいるかをよく理解せよと言っています。

【吉井】ATACと研究開発で何年かやってきて、研究開発の場合はわれわれが望んでいるのはむしろ理想論です。理想を言って欲しいのです。これからの日本は最先端技術とソフトパワーの結合が必要です。ルイ・ヴィトンなどで、千円で作ったものを1万円で売っているが、われわれには今はできませんが、ソフトパワーを使って世界で最高級と認められるブランドを作ろうとしています。その時にATACの技術力を利用させていただくつもりです。

【中尾】当社の製品は乾物の世界なので、昔は虫が湧いても「しょうがない」で済んだのが、今はちょっとでも虫が出れば、ロット回収です。虫の卵は0.3mmですが、細菌よりも卵の方が強いので難しい問題でしたが、ATACと協力して、ある条件で殺卵できる方法を発見し、特許を取るにもATACの協力で成功しました。ATACを良いアドバイザーとして付き合っているのです。

【金澤】当社は電子機器を作っていて、ATACとは10年ぐらい前からお付き合いをさせていただいています。そのころはコンベアーで物を作るのが常識になっていました。そのころから顧客の要求が多様化し、少量多品種で効率良い生産のできる仕組みが必要になってきました。そこでATACの先生方にお世話になりながら、コンベアーをばらして、セル生産システムを立ち上げていったのです。その後、安定した品質のモノを効率良く生産する自動組立機にチャレンジし、ATACの先生方に指導をしていただきながら完成させました。



吉井専務取締役

【吉井】私の方のATACとの契約は何回来て半年契約ということではなく、1年間契約して、その中である程度自由に相談させていただくのです。実際の運用として契約以外のATACの専門家の方をお願いしたりして

います。一見関係ないような方が天才的なひらめきで話をされて、それがすばらしいと感じています。そういうことが普通ではない物を作るには必要ではないかと考えています。順番にデータを取って、こうしようあしようではなくて、ある時全然違う発想で言われることが貴重なのです。

【梶原】 ATACのやり方は月2回の研究会で、各人の持っているテーマについて、専門の異なる25人が知恵を出して揉んでいるのです。ですからクライアントに対する担当者は2人でも25人がバックアップしているので25人を使っているようなものです。更に25人のメンバーがそれぞれ人脈を持っているので、25人が更に広がっているのです。

◆ATACの特徴と効果

【栄西】 ATACにコンサルティングしていただいて結果はともかくとして、仕事の進め方を社内の人に知ってもらうことに価値ありと感じています。今まで、単にやっていたことがATACのご指導でデータを取り込んで利用するやり方を学び、それが役立っています。会社はプロの集団ですからやれるはずですが、やり方が分からないので、その道筋を作ってもらただけでも有意義と思っています。



栄西常務取締役

【田頭】 私たちがやっていて、中小企業の方はデータの使い方があまり上手ではないと思っています。若い人はデータの作り方が上手で、カラーの鮮やかなグラフに経営者はごまかされるのです。じっくり見てください。データが良くなると、良くなった原因、悪くなると悪くなった原因を追究することが大切

です。【金澤】 普通のコンサルティングに頼むと、いろいろ分析をして報告書を出して、後はメソッドを教えてもらえるだけです。実際、現場に入って社員と一緒にやってもらえるのが、ATACの普通のコンサルタントと違うところです。それはずっと続けていって欲しいと思います。社員の教育・人づくりのところで協力していただいているのが非常に有り難いと思っています。

【吉井】 ATACが具体的に成果を出していただくことはメリットとして考えていますが、例えば外部の方が来られて、こういう事ができますかと聞かれた時にもATACが役立っています。自分ではできなくても、ATACに相談すればできると思っているので、自信を持って「できますよ」というと技術力がアップしているように相手が受け取ってくれるのです。また、貴金属でこういう加工ができるかと言われたときに、われわれは機械加工のことが分からなくても、ATACに相談すればできることがある程度わかっているので「できます」と相手に言えるのです。そして例えば官公庁のホームページに吉井商店はこういうことができると書いてくれるのです。ATACのお蔭でそのような目に見えないメリットがあり、お役所などで奥行きの深い会社と理解してくれるのです。



中尾代表取締役社長

【中尾】 ATACと契約しておれば、敷居が高くて行けないところへも一緒に聞きに行けるのです。われわれの世界では外部の情報を聞きに行くにも限られています。だけどATACの場合、わが社のコンサルティング担当者の人脈だけでなく、他のATACメンバーの人脈も使えるのです。そのバックヤードの大きさは凄いです。私はコンサルティングを頼むのではなく、社内でやらねばと言ってやってきました。しかしコンサルティングをお願いして、いろいろヒントをいただき、別の世界に接して、当社の進めた方向は正しかったと喜んで

◆ATACに望む

【梶原】 ATACにこうして欲しいという注文はございますか。料金を含めてどんなことでもご意見をお聞かせください。

【栄西】 コンサルティング料は安い方がよいが、高くなるとプレッシャーがかかってしっかりやらねばという姿勢になるでしょう。

【中尾】 コンサルティング料に関しては結果の評価がむづかしいのです。高くなれば、効果が目に見えて出てくるのが分からないからです。

【梶原】 ATACはコンサルティングだけでなく、社長懇話会を続けており、ここでは見学や社長さんの話を聞く以上に、社長同士の交流が生まれて成果を上げる例もあり、喜ばれています。

【田頭】 ATACは契約書のテーマ以外のことでも悩み相談の形で対応するようにしています。

【金澤】 われわれはコンサルティングということで、構えるところがありましたが、これからは悩みの相談室と考えて、いろいろ相談したいと思います。



田頭副運営委員長

【吉井】 私はATACの担当者を準社員のつもりで、お願いしています。1人雇えば高いので安い準社員がいると思っています。しかもバックに沢山優秀な方がおられるので、ATACのコンサルティングは非常に安いと理解して、本来秘密が一杯ありますが、ほとんど隠さず話をしてしています。そして今7年目ですが、後3年続けて10年ぐらい長期間やってみて、成果はどうか考えたいと思っています。私はATACを宝物と思っています。値段が高いとか安いとか、ATACの特徴などの話がありましたが、結局ATACのコンサルティングをどれだけ活かせるかだと思います。宝箱は宝箱として、宝が一杯ありますが、それを自分が鍵を開けて取り出すことができなければ、それはゴミにしか過ぎないのです。それは企業の責任です。だから私は高いとか安いとか良いとか悪いとかはあまり考えていません。

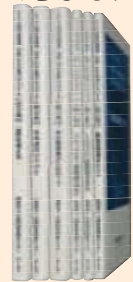
【梶原】 本日お聞かせいただいたご意見を今後のATACの業務に活かしていきたいと思いますので、今後も引き続きATACをよろしくご指導ください。本日はお忙しいところ、貴重なお話をいただき、有難うございました。

(田頭記)

ATACからの出版物

これまでに中堅・中小企業の経営・技術の向上を支援するために次のような出版物を発行してきました。書名と内容を抜粋して紹介させていただきます。

- ①「ATAC経営便利帳 輝く中堅・中小企業を目指して」(1996年)
 - ・中堅・中小企業は産業の柱 ・もっと元気な企業にする方法
 - ・新製品・新事業開発の考え方 ・経営指標の活用(トップのための経営自己診断)
- ②「現場の課題解決はこうする 中堅・中小企業の業務改善事例」(2000年)
 - ・生産性向上 ・コンピューターシステム構築 ・研究 ・品質向上 ・自動化設備開発
 - ・5S活動 ・経営改善 ・ISO認定取得
- ③「中堅・中小企業へのATAC提言集(1) 新商品開発のヒント」(2001年)
 - ・中小企業の役割と期待 ・単独企業内の新商品開発 ・共同開発の留意点
 - ・“常備薬” ・創造力を高めるために
- ④「中堅・中小企業へのATAC提言集(2) ISO9000認定取得の手引き」(2001年)
 - ・急がれる国際標準への対応 ・国際規格とは ・認定取得のメリットと心構え
 - ・品質マネジメントの原則
- ⑤「中堅・中小企業へのATAC提言集(3) ISO14001認定取得の手引き」(2001年)
 - ・地球環境破壊の現状 ・環境マネジメントシステム規格の基本理念
 - ・ISO14001規格の要求内容 ・環境側面と環境影響の特定の仕方
- ⑥「中堅・中小企業へのATAC提言集(4) 中小製造業のためのIT」(2001年)
 - ・ITと経営 ・営業とIT ・開発・設計とIT ・製造とIT ・購買とIT ・人事とIT
 - ・経理とIT ・総務とIT ・アフターサービスとIT
- ⑦「中堅・中小企業へのATAC提言集(5) 材料選択の手引き」(2002年)
 - ・材料の役割と価格・特性
 - ・金属材料(鉄鋼、ステンレス鋼、アルミニウム、銅、チタン、マグネシウムとそれらの合金)
 - ・セラミックス ・プラスチック ・表面処理と塗装
- ⑧「中堅・中小企業へのATAC提言集(6) 設計を考える」(2003年)
 - ・製品の安全性 ・法令の順守 ・PL(製造物責任)対策 ・信頼性について
 - ・設計に際して注意すべき事項 ・CADについて ・板金設計
 - ・プラスチック成形品の設計 ・機械加工部品の設計



今回、ATAC 15周年を記念して次の本の出版を進めています。

- ⑨「目からウロコのアドバイス 中小企業経営者への提言」(2006年)
 - ・コンサルティング現場からのアドバイス
(経営改善・現場改善、品質管理・品質問題、ISO取得と効果、IT戦略、生産管理・生産技術、原価低減、設備・生産システム改善、技術管理・研究開発、コンサルティング・課題解決)
 - ・中小企業の特徴と課題
(ATACメンバーの意見集約、中小企業の経営、人材、設備、計画、組織、情報、IT、管理)

今後とも中堅・中小企業の経営・技術の向上に寄与できる書籍の出版を心がけてと思っています。ご一読いただければ光栄です。



ATAC事務局

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4

(財)大阪科学技術センター 技術・情報振興部

TEL06-6443-5323 FAX06-6443-5319

e-mail : atac@ostec.or.jp



ATACホームページもご覧下さい

URL <http://www.atac.ne.jp>